

令和2年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	図書館の管理運営			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	100404-05-01 100404-10-01			担当係名	図書館係
事業区分	継続予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	図書館法、下諏訪町立図書館条例、下諏訪町立図書館規則、下諏訪町立図書館協議会規則				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	町民を中心に諏訪広域圏の住民に、知る権利・学習権を保障し、読書・調査研究の場を提供するため、書籍・雑誌・視聴覚資料等を収集・整理・保存し、貸出し・閲覧をとおして提供する。多様化する町民ニーズに応えるため、資料の充実を努める。また、子どもたちの読書を推進し、町民の読書・生涯学習の意欲を高め、親しみのある図書館にするため、様々な事業を展開する。読書にハンディーキャップのある人へのサービスの拡充につとめる。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	人口一人当たりの貸出冊数	貸出し冊数/町人口 (目標値は県平均)	冊	目 標	6	6	6
				実 績	12	10	/
達成率	200.0%	166.7%	/				

【投入されたコスト・業務量】

		令和元年度決算		令和2年度決算		令和3年度予算		
事業費	事業費 A	35,663 千円		33,097 千円		43,058 千円		
	うち 会計年度任用職員人件費	13.00 人	15,557 千円	12.00 人	13,713 千円	12.00 人	16,331 千円	
	正規職員人件費 B	2.00 人	13,198 千円	2.00 人	12,833 千円	2.00 人	13,498 千円	
事業費合計 C (A+B)		48,861 千円		45,930 千円		56,556 千円		
財源内訳	特定財源	国の負担						
		県の負担						
		町の借入					5,800 千円	
		その他	92 千円		583 千円		1,060 千円	
		うち 使用料・手数料 D						
一般財源 (町の負担)		48,769 千円		45,347 千円		49,696 千円		
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %		

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町以外では行えない 図書館法に基づき、図書館は住民にその求めている情報・資料を無料で提供する使命を持っている。
公平性	A	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 適切である 下諏訪町民は5,499人、町外の方8,351人の計13,850の方が下諏訪町立図書館の登録利用をされている。図書館法の定めにより資料提供は無料を原則としている。対価のあるコピーサービスは利用者に費用負担を求めている。資料の紛失・汚損等は利用者に弁償を求めている。
効率性	A	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 適切である システムを更新し諏訪広域ネットワーク内の本の配送が効率的になり、予約された本が利用者へ届く時間が短縮された。諏訪地方やそれ以外の他館への貸出数は新型コロナ禍による休館もあり、減少している。少数の正規職員と会計年度任用職員で効率的な運営がなされているが、長期的な視野に立った人員配置が求められる。
達成度	A	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) 目標値以上である 町民一人当たりの貸出数は10冊で昨年より2冊の減である。しかし、県の平均6冊を上回る数値である。一般書、児童書の貸出数もコロナ禍による休館を考慮すると大きな減少とはなっていない。インターネットの普及にとまない本離れが進行する中、図書館としてはデータベースなどで資料提供をする道を今後も模索していく。

総合評価	現状維持	書店業者、レンタルDVD店が減少する中、誰でも無料で本や映像資料等を提供する図書館の役割はますます重要になっている。生活や仕事に役立つ本など、町民の幅広い資料要求に応えられる本を揃えると共に、デジタル資料を充実させ、利用者層の拡大に努めることが求められる。また、読書を推進する活動に力を入れる必要がある。
	現状維持	
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和2年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	地域資料保存事業			担当課名	教育こども課
(予算書コード)	100404-12-01			担当係名	図書館係
事業区分	継続予算	運営方法	直 営	委 託	
事業の開始・終了	平成 29 年 6 月 ~ 年 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称	図書館法				

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	未来の下諏訪町民に町の歴史的資料を残すため、下諏訪町の昔の姿がわかる写真・映像をデジタル化し、文字情報と共に保存する。保存された情報を町民がアクセスしやすい形で提供する。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	デジタル化した写真数	デジタル化した写真数	枚	目 標	400	150	100
				実 績	458	587	/
				達成率	114.5%	391.3%	/

【投入されたコスト・業務量】

		令和元年度決算		令和2年度決算		令和3年度予算	
事業費	事業費 A	896 千円		437 千円		145 千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	0.30 人	389 千円	0.30 人	336 千円	0.30 人	341 千円
	正規職員人件費 B	0.20 人	1,320 千円	0.10 人	642 千円	0.10 人	675 千円
事業費合計 C (A+B)		2,216 千円		1,079 千円		820 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担					
		県の負担	678 千円				
		町の借入					
		その他					
		うち 使用料・手数料 D					
一般財源 (町の負担)		1,538 千円		1,079 千円		820 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		0 %	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町が行う必要があるか 国・県・民間・住民と役割分担できないか 町以外では行えない
公平性	A	受益者が偏っていないか 適切な費用負担を求めているか 適切である 受益者は町民全体であり、また、費用負担は発生しない。
効率性	A	予算、人員と成果を踏まえ、事業が効率的に行われているか 適切である シルバー人材センターへの委託により、資料内容の確認作業など効率的な運営がなされている。
達成度	A	事業の活動成果は目標を上回っているか (下回っている場合は、その理由) 目標値以上である 写真・映像ともに目標を上回って保存することができた。しかし、町民への還元という点では説明会への参加者は7名で少なかったが、今後も提供された写真等についてデジタル化を図っていきたい。また、町民からの投稿も増えるようPRしていききたい。

総合評価	現状維持	県の地域発元気づくり支援事業の補助を3年計画で受けており、最終年である令和元年度にはインターネットによる情報発信を行った。また、この事業は今後も継続的に資料を保存し、文化の継承と地域活性化に役立てていく。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	